

国語科 小学校第6学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例, ◆課題
4	詩を楽しもう せんねん まんねん 続けてみよう ◎自分の印象や自分なりに大事だと思うところが伝わるように音読する。	C(1)ア 伝国(1)ウ B(1)ア	2		内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する	本学年までに音読, 朗読の指導を十分に行い, 中学で言語事項として適宜活用できるようにしておく		
	自分の体験と重ねて読み, 感想を書こう ◎登場人物の相互関係や心情, 情景を読み取り, 作品についての考えをまとめる。	C(1)エ・オ B(1)カ 伝国(1)イ	3		場面の移り変わりに注意しながら, 登場人物の性格や気持ちの変化, 情景などについて, 叙述を基に想像して読む	中1ではより分析的な読みの指導をする。そのために, 本学年では登場人物の相互関係に基づいて心情をとらえる指導をする。また, 優れた叙述について自分の考えを持ちながら読む指導をする。	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み, 内容の理解に役立てる	
	漢字の広場① ◎5年生までに配当されている漢字を書き, 文や文章中で使う	伝国(1)ウ(ア) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え, 250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き, 文や文章の中で使う。	
	春はあたたか ◎「春」を題材にした詩や短歌・俳句の解説を読み, 語感や気づいたことを発表する。	伝国(1)ア・イ	1		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする	本学年では, 文語調の文章について内容の大体を知り, 昔の人のもの見方や感じ方をすることができるようにさせる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り, 古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	
5	文章と対話しながら読み, 自分の考えをもとう 感情 生き物はつながりの中に ◎筆者の意図を考えながら読み, 要旨をまとめる。	C(1)ウ・オ B(1)カ 伝国(1)イ	7		目的に応じて, 中心となる語やぶんととらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え, 文章を読む。	中1では, 目的に応じて文章の必要な部分を読む指導をする。そのために, 本学年ではなんのために必要かを明確にして要旨をとらえ, 一定の分量や表現の仕方でもとめる指導をする。	文章の中心的な部分と付加的な部分, 事実と意見などを読み分け, 目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする。	
	相手の意図を聞き取り, 自分の主張を伝えよう 伝えにくいことを伝える ◎討論会の話題に沿って, 話し手の意図を捕らえながら聞き, 自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。	A(1)エ・オ 伝国(1)イ	7		互いの考えの共通点や相違点を考え, 司会や提案などの役割を果たしながら, 進行に沿って話し合う。	中1では, 相手の発言を自分の考えに生かす指導をする。そのために, 本学年では, 相手の意図を考慮し, 自分の意見と比べる指導をする。中学ではより建設的な話し合いをする。そのために本学年では時間配分や発言の長さを意識して話し合うことを指導する。	話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめる。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例, ◆課題
6	町の良さを伝えるパンフレットを作ろう	B(1)ア・イ・ウ・エ・オ・カ 伝国(1)イ	12		文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する。	中1では、段落の役割を考える指導をする、そのために、本学年で相手に考えを明確に理解させるような構成の効果を指導する。	集めた材料を分類するなどして整理すると共に、段落の役割を考えて文章を構成する。	
	ようこそ、わたしたちの町へ ◎「町の良さを伝える」ためにパンフレットの構成に沿って伝えたいことが明確になるように書く。							
	漢字の広場② ◎5年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(7) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること。	漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
6～7	伝統文化を楽しもう 伝えられてきたもの 狂言 柿山伏 ◎「柿山伏」を読み、役割を決めて自分の思いが伝わるように音読する。	C(1)ア 伝国(1)ア・イ ウ	6		長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使う。	本学年では、解説の内容を基に、古典の背景をできる限り易しく理解させ、古典への興味・関心を深めるようにする。	古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。	
7	漢字の形と音・意味 ◎漢字を組み立てている部分には、音を表すものや意味を表すものがあることを理解する。	伝国(1)ウ	2		漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつ。	漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
	聞いて楽しもう 河鹿の屏風 ◎読み聞かせを聞いて、場面の情景や登場人物の相互関係や心情を想像する。	C(1)エ	1		場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。	中1ではより分析的な読みの指導をする。そのために、本学年では登場人物の相互関係に基づいて心情をとらえる指導をする。また、優れた叙述について自分の考えを持ちながら読む指導をする。	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる	
	夏は暑し ◎「夏」を感じる言葉を知り、それらの言葉のもつ語感、使い方に対する感覚などについて関心をもつ。	伝国(1)ア・イ	1		表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣をつける。	本学年では、実際の言語活動において、話しや文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように活用すればよいかについて考えさせる活動へつなげていく。	単語の種類について理解し、指示語や接続語及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意する。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例, ◆課題
7	短歌を作ろう たのしみは 「とんぼ」の俳句を比べる ◎条件に合わせて短歌を作り、読み合って表現の仕方に着目して助言し合う。	B(1)オ・カ 伝国(1)ア・イ	4		書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さ等について意見を述べ合う。	中学では、考えを拡張する指導をする。そのために、書く目的や意図に照らして構成や表現について助言し合う指導をする。中1では、根拠の確かさを評価する指導をする。そのために、本学年では表現の仕方を評価する力をつける指導をする。	書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現を参考にしたりする。	
8～9	漢字の広場③ ◎5年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(7) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること。	漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
	自分の考えを明確に伝えよう 「平和」について考える ◎意見文をもとに、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張する。	B(1)ア・イ・エ Aイ・エ 伝国(1)イ	14(+1)	・短い文章で要旨のまとめ方の学習を行う。「要旨」の学習の想起を行い、決められた字数で要旨をまとめる練習にすることで、自分の力で要旨をまとめる事が出来るようになることをねらう。	相手や目的に応じて理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。	中1では、より相手を意識した話し方を指導する。そのために、本学年では相手や場に応じた適切な言葉遣いを指導する。	全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話す	
	熟語の成り立ち ◎熟語の構成などについて理解を深める。	伝国(1)イ・ウ	2		表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。	本学年では、実際の言語活動において、語や文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように活用すればよいかについて考えさせる活動へつなげていく。		
10	生活の中の敬語 ◎日常よく使われる敬語の使い方に慣れることができる。	伝国(1)イ	2(+1)	・本単元は、日常生活において重要であるが定着しづらい内容でもある。相手の立場を考えて敬語を使うことができるようプリント等を使った練習時間が必要である。		本学年では、丁寧な言い方などについて理解させ、日常の言語生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れさせる。		
	作品の世界を深く味わおう やまなし 〈資料〉イーハトーブの夢 ◎目的に応じて、複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫する。	C(1)イ・エ・オ・カ 伝国(1)イ	8			本学年では、効果的な読み方の指導を十分に行い、中学で言語事項として適宜学習に活用できるようにしておく。		

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例, ◆課題
	漢字の広場④ ◎5年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(7) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること。	漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
10	秋は、人恋し ◎語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ。	伝国(1)ア・イ	1		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。	本学年では、文語調の文章について内容の大体を知り、昔の人のものの見方や感じ方をすることができるようにさせる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	
11	ものの見方を広げよう 『鳥獣戯画』を読む ◎事実と感想・意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。	C(1)ウ・オ 伝国(1)イ	5		目的に応じて、中心となる語やぶんとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。	中1では、目的に応じて文章の必要な部分を読む指導をする。そのために、本学年ではなんのために必要かを明確にして要旨をとらえ、一定の分量や表現の仕方でもとめる指導をする。	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする。	
	読み取ったことと、感じたことを表現しよう この絵、わたしはこう見る ◎事実と感想、意見などを区別するとともに、見た絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりする。	B(1)ア・ウ・カ 伝国(1)イ	4		書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。	中1では、自分の考えなどを根拠を明確にして書く指導をする。そのために、本学年で事実と自分の考えを区別することを重視して指導する。	伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。	
	漢字を正しく使えるように覚えておきたい言葉 ◎送り仮名や仮名遣いに注意して漢字を正しく書く。	伝国(1)イ・ウ	2		送り仮名に注意して書き、また、活用について意識をもつ。	本学年では、語句の構成などに注意し、正しく表記できるようにする。	語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し五感を磨く。事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めると共に、話や文章の中の語彙について関心をもつ。	
	声に出して楽しもう 天地の文 ◎親しみやすい古文や漢文について、内容の大体を知り、音読する。	伝国(1)ア	1		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。	本学年では、文語調の文章について内容の大体を知り、昔の人のものの見方や感じ方をすることができるようにさせる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例, ◆課題
	漢字の広場⑤ ◎5年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(7) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること。	漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
12	本は友達 わたしと本森へ ◎自分と本とのかかわりについて振り返り、自分の考えをまとめて書く。	B(1)ア・イ C(1)オ A(1)エ 伝国(1)イ	8(+1)	・情景描写の効果について話し合い、それを基にした感想文を書かせる。その際に、学年で使いたい語彙表を紹介し、その言葉を使った短文づくりを行い、語彙力をふやすことをねらう。	文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する。	中1では、段落の役割を考える指導をする、そのために、本学年で相手に考えを明確に理解させるような構成の効果を指導する。	集めた材料を分類するなどして整理すると共に、段落の役割を考えて文章を構成する。	
	冬は、春の隣 ◎親しみやすい古文や漢文について、内容の大体を知り、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	伝国(1)ア・イ B(1)オ	2		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。	本学年では、文語調の文章について内容の大体を知り、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができるようにさせる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	
	カンジー博士の漢字クイズ大会 ◎紛らわしい送り仮名に気をつけて、読んだり書いたりする。	伝国(1)イ・ウ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること。	漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
1	言葉について考えよう 言葉は動く ◎自分の考えを発表し合い、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づく。	C(1)ウ・オ 伝国(1)イ	5		文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づく。	中学では、考えを拡張する指導をする。そのために、小学校で、読んで考えたことを友達と交流する指導をする。中学では、より詳細に文章を評価する指導をする。そのために、小3、4で必要なところを引用したり要約したりする。	文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる。	
1～2	随筆を書こう 自分を見つめ直して ◎随筆という文章様式を知り、文章構成を確認して随筆を書く。	B(1)ア・ウ 伝国(1)イ	7(+1)	・実際に文章を書く前に修飾語について取り上げ指導を行う。修飾語についての定着を図るとともに、自分の文章に生かしていこうとする態度を養うことをねらう。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。	中1では、自分の考えなどを根拠を明確にして書く指導をする。そのために、本学年で事実と自分の考えを区別することを重視して指導する。	伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例, ◆課題
	物語を読んで、考えを深めよう 海の命 ◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた描写について自分の考えをまとめる。	C(1)エ・オ 伝国(1)イ			場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む	中1ではより分析的な読みの指導をする。そのために、本学年では登場人物の相互関係に基づいて心情をとらえる指導をする。また、優れた叙述について自分の考えを持ちながら読む指導をする。	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる	
2～3	聞く人の心に届くように発表しよう 今、わたしは、ぼくは ◎12歳の今思うことを伝えるために、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。	A(1)ア・イ・ウ・エ 伝国(1)イ	6		相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。	中1では、より相手を意識した話し方を指導する。そのために、本学年では、相手や場に応じた適切な言葉遣いを指導する。	全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話す。	
3	卒業するあなたたちへ 生きる 言葉の橋 ◎「生きる」と「言葉の橋」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。	C(1)ア・オ 伝国(1)イ	4		文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づく。	中学では、考えを拡張する指導をする。そのために、小学校で、読んで考えたことを友達と交流する指導をする。中学では、より詳細に文章を評価する指導をする。そのために、小3、4で必要なところを引用したり要約したりする。	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる	
	合計		175					